

交通事故の死者の半数は高齢者です

全国の交通事故の死者はこの10年で**9,006**人から**4,914**人へと**ほぼ半減し、劇的に減少しました**。ところが65歳以上の高齢者の事故死者数は**3,141**人から**2,452**人へと**わずか22%の減少にとどまっています**。高齢者が全体に占める比率は半数に近づき、平成22年上半期にはついに50%を越えました。車社会の中で定期バスの路線廃止が続き、買物や通院の足を失った交通弱者としての高齢者問題が話題になっていますが、**交通事故死の面でも高齢者が弱者・被害者**となっています。

事故のときの状態をみると、高齢者は**歩行中や自転車乗用中に車にはねられる死者が67%と大きな割合**を占めています。人数でも65歳以下の若い人達の2倍以上の事故死者を出しており、その対策が課題になっています。また、**自動車運転中の事故による死者数**は65歳以下の**1,008**人に対し**592**人と少ないように見えますが運転者総数を考えると**高齢者の事故死率は非常に高いこと**になります。その対策として免許更新時の指導強化や超高齢者の免許証返納などが進められています。

